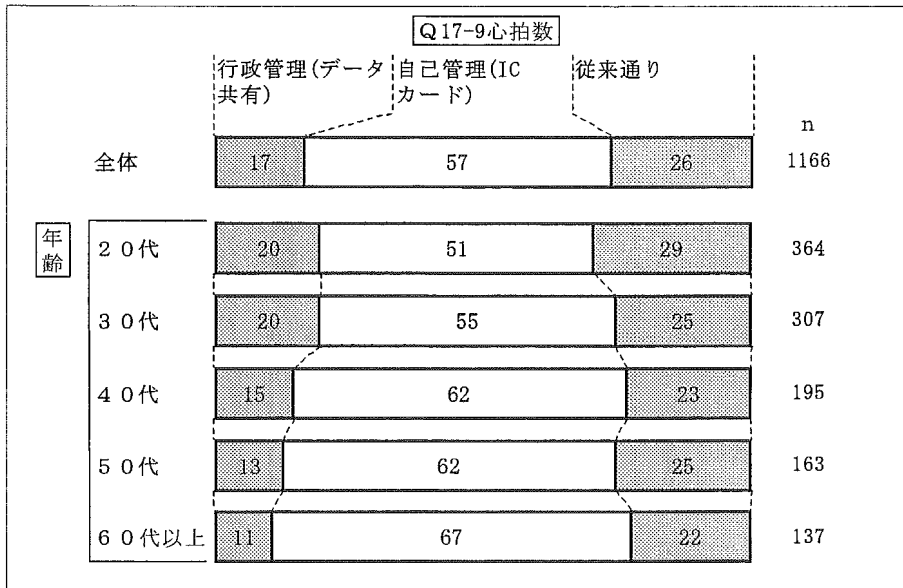


「年齢」と問 17-9「どのように心拍数の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように自分の心拍数の情報を管理したいか」

		合計	Q17-9心拍数			
			行政管理 (データ 共有)	自己管理 (ICカー ド)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	170 16.9	578 57.3	260 25.8	158
年 齢	20代	364 100.0	58 19.9	148 50.7	86 29.5	72
	30代	307 100.0	54 19.6	151 54.9	70 25.5	32
	40代	195 100.0	25 14.6	106 62.0	40 23.4	24
	50代	163 100.0	19 12.9	91 61.9	37 25.2	16
	60代以上	137 100.0	14 11.4	82 66.7	27 22.0	14



<考察>

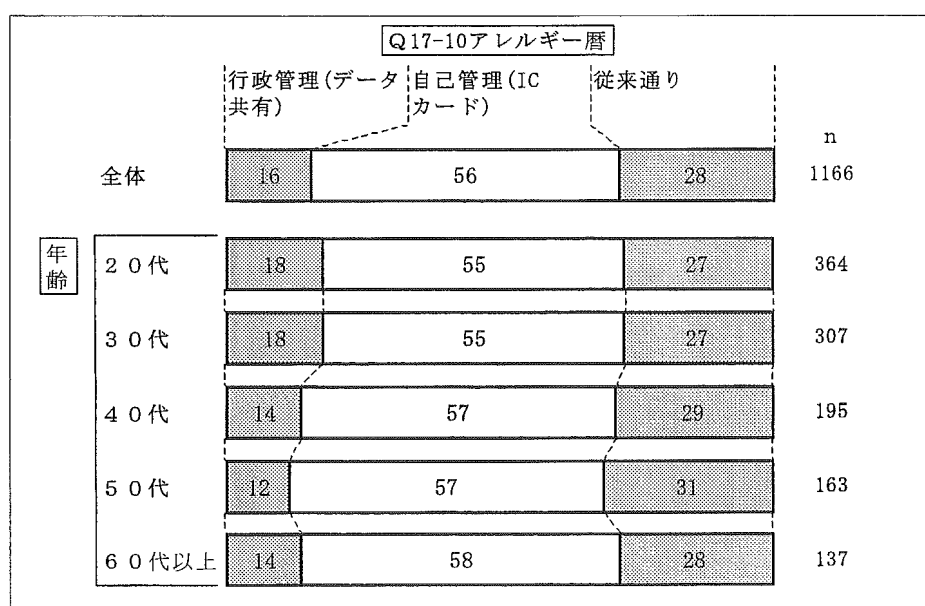
全体では自己管理が過半数を占めている。このことから、心拍数については情報漏えいの危険性は避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見ると年齢が高くなるにつれて自己管理の割合が高く、行政管理の割合が低くなっている。このことから、年齢が高くなるほど、心拍数という情報が漏えいされたくないことが分かる。特に、60代以上は顕著に行政管理に対して消極的である。

「年齢」と問 17-10「どのようにアレルギー量の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように自分のアレルギー量の情報を管理したいですか」

		合計	Q 17-10アレルギー歴			
			行政管理 (データ 共有)	自己管理 (ICカー ド)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	157 15.6	568 56.5	281 27.9	160
年齢	20代	364 100.0	51 17.5	160 55.0	80 27.5	73
	30代	307 100.0	49 17.8	153 55.6	73 26.5	32
	40代	195 100.0	23 13.5	98 57.6	49 28.8	25
	50代	163 100.0	17 11.6	85 57.8	45 30.6	16
	60代以上	137 100.0	17 13.8	72 58.5	34 27.6	14



<考察>

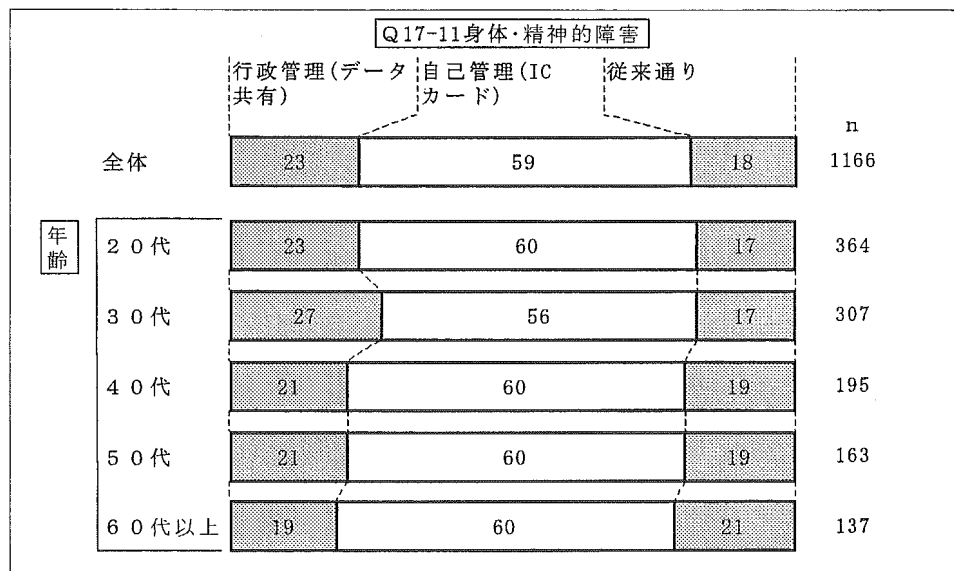
全体では自己管理が過半数を占めている。このことから、アレルギー歴については情報漏えいの危険性は避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見ると年齢が高くなるにつれて自己管理の割合が高く、行政管理の割合が低くなっている。このことから、年齢が高くなるほど、アレルギー歴という情報が漏えいされたくないことが分かる。特に、50代は顕著に行政管理に対して消極的である。

「年齢」と問 17-11「どのように身体・精神的障害の情報を管理したいか」クロス集計分析  
質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように身体・精神的障害の情報を管理したいですか」

		合計	Q17-11身体・精神的障害			
			行政管理 (データ 共有)	自己管理 (ICカー ド)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	232 23.1	592 58.8	182 18.1	160
年 齢	20代	364 100.0	67 23.0	174 59.8	50 17.2	73
	30代	307 100.0	75 27.4	153 55.8	46 16.8	33
	40代	195 100.0	36 21.1	103 60.2	32 18.7	24
	50代	163 100.0	31 21.1	88 59.9	28 19.0	16
	60代以上	137 100.0	23 18.7	74 60.2	26 21.1	14



#### <考察>

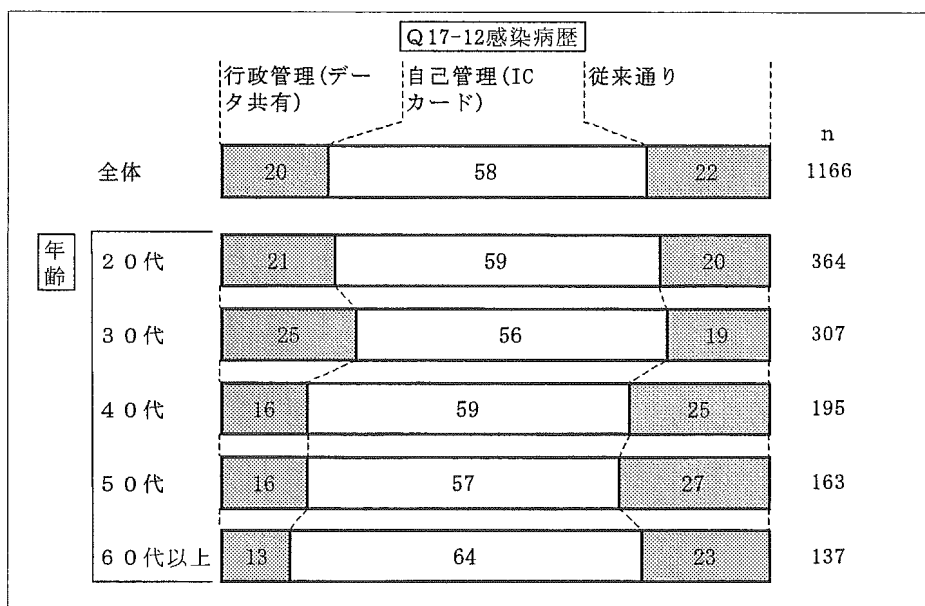
全体では自己管理が過半数を占めている。このことから、身体・精神的障害については情報漏えいの危険性は避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見ると30代を除き年齢が高くなるにつれて自己管理の割合が高く、行政管理の割合が低くなっている。このことから、年齢が高くなるほど、身体・精神的障害という情報が漏えいされたくないことが分かる。

「年齢」と問 17-12「どのように感染病歴の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように自分の感染病歴の情報を管理したいですか」

		合計	Q17-12感染病歴			不明
			行政管理 (データ共有)	自己管理 (ICカード)	従来通り	
全体		1166 100.0	196 19.5	588 58.6	220 21.9	162
年齢	20代	364 100.0	60 20.6	173 59.5	58 19.9	73
	30代	307 100.0	70 25.5	153 55.6	52 18.9	32
	40代	195 100.0	27 15.8	101 59.1	43 25.1	24
	50代	163 100.0	23 15.8	84 57.5	39 26.7	17
	60代以上	137 100.0	16 13.2	77 63.6	28 23.1	16



<考察>

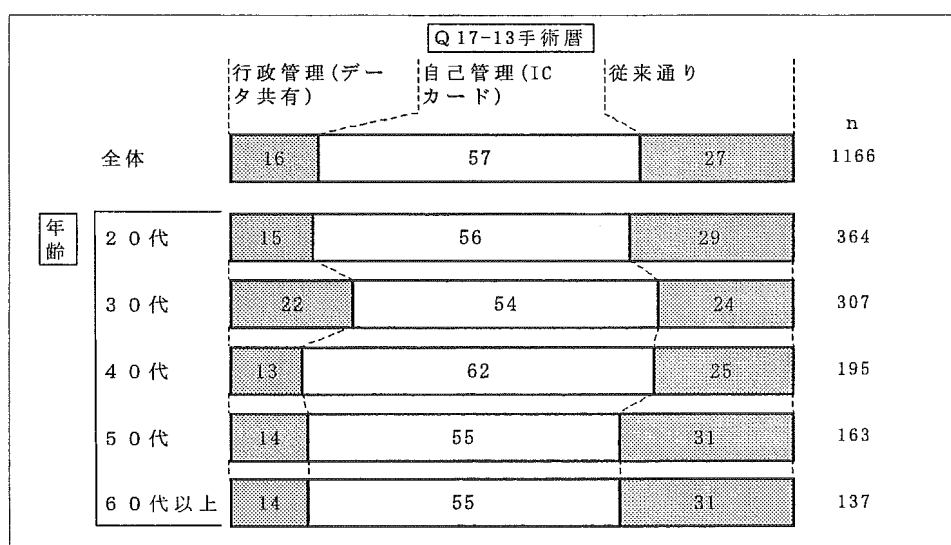
全体では自己管理が過半数を占めている。このことから、感染病歴については情報漏えいの危険性は避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見るとそれほど年代間の差異は見受けられない。30代が比較的に行政管理に積極的だが、それほどの特徴はないと言える。

「年齢」と問 17-13 「どのように手術歴の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように自分の手術歴の情報を管理したいですか」

		合計	Q17-13手術歴			
			行政管理 (データ共有)	自己管理 (ICカード)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	165 16.4	568 56.4	274 27.2	159
年齢	20代	364 100.0	45 15.5	163 56.0	83 28.5	73
	30代	307 100.0	61 22.2	149 54.2	65 23.6	32
	40代	195 100.0	22 12.9	106 62.0	43 25.1	24
	50代	163 100.0	20 13.6	82 55.8	45 30.6	16
	60代以上	137 100.0	17 13.8	68 55.3	38 30.9	14



<考察>

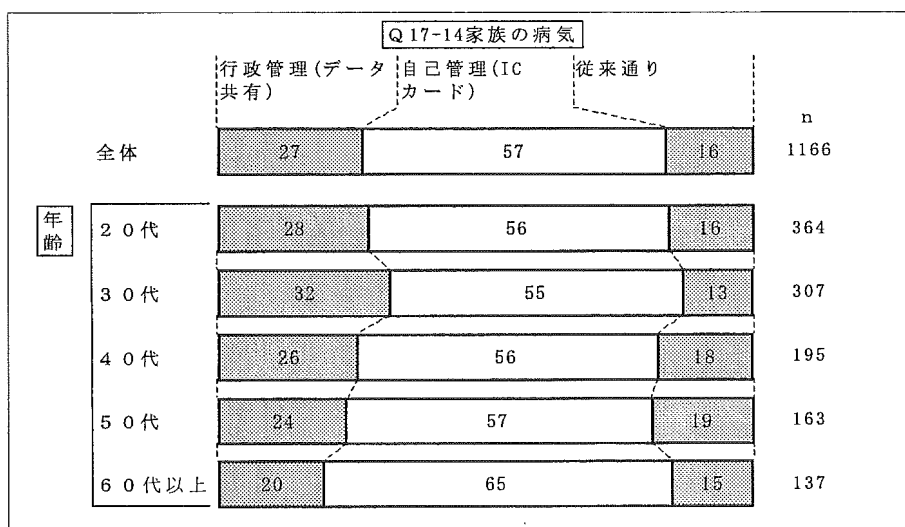
全体では自己管理が過半数を占めている。このことから、手術歴については情報漏えいの危険性は避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見ると30代・40代以外はそれほど年代間に差異は見受けられない。30代は行政管理に若干積極的で、40代は他の年代よりも自己管理に積極的である。

「年齢」と問 17-14「どのように家族の病気の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように自分の家族の病気の情報を管理したいですか」

		合計	Q17-14 家族の病気			不明
			行政管理 (データ共有)	自己管理 (ICカード)	従来通り	
全体		1166 100.0	274 27.3	574 57.1	157 15.6	161
年齢	20代	364 100.0	81 27.9	164 56.6	45 15.5	74
	30代	307 100.0	89 32.5	150 54.7	35 12.8	33
	40代	195 100.0	44 25.7	96 56.1	31 18.1	24
	50代	163 100.0	35 23.8	84 57.1	28 19.0	16
	60代以上	137 100.0	25 20.3	80 65.0	18 14.6	14



<考察>

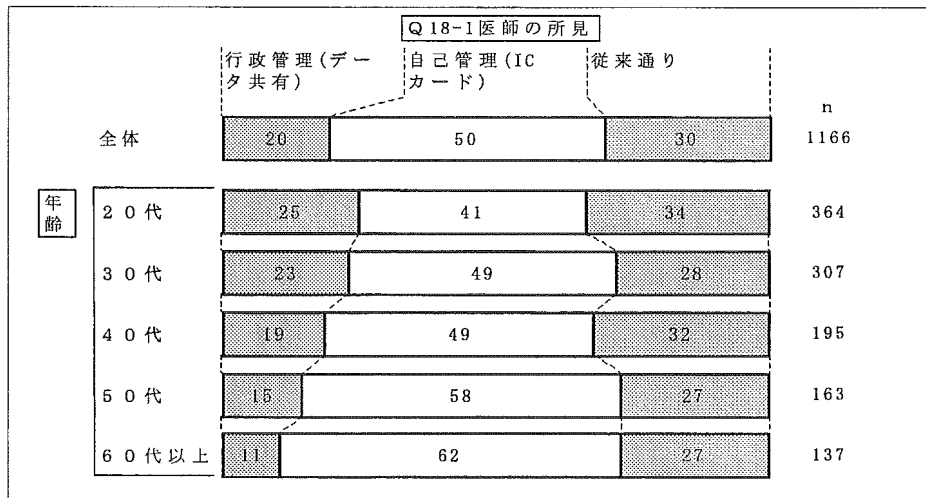
全体では自己管理が過半数を占めている。このことから、家族の病気については情報漏えいの危険性は避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見ると30代を除き年齢が高くなるにつれて自己管理の割合が高く、行政管理の割合が低くなっている。このことから、年齢が高くなるほど、心電図という情報が漏えいされたくないことが分かる。30代は他の年代に比べて行政管理に積極的である。これは、30代は子供が小さいため、小児科に通う回数が多く、利便性の向上を望んでいるためであると考えられる。

「年齢」と問 18-1「どのように医師の所見の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように自分の医師の所見の情報を管理したいですか」

		合計	Q18-1 医師の所見			
			行政管理 (データ共有)	自己管理 (ICカード)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	232 20.3	563 49.3	347 30.4	24
年齢	20代	364 100.0	88 24.8	146 41.1	121 34.1	9
	30代	307 100.0	69 23.0	146 48.7	85 28.3	7
	40代	195 100.0	36 18.9	93 48.9	61 32.1	5
	50代	163 100.0	24 14.9	94 58.4	43 26.7	2
	60代以上	137 100.0	15 11.0	84 61.8	37 27.2	1



<考察>

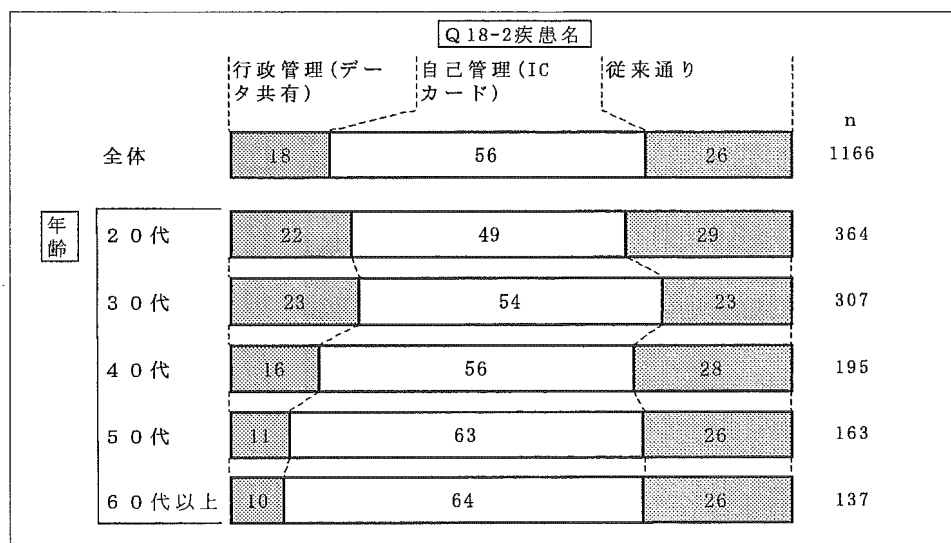
全体では自己管理が過半数を超えず、従来どおりが行政管理を上回っている。このことから、医師の所見については情報漏えいの危険性は極力避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見ると年齢が高くなるにつれて自己管理の割合が高く、行政管理の割合が低くなっている。このことから、年齢が高くなるほど、医師の所見という情報が漏えいされたくないことが分かる。特に、60代以上は顕著に行政管理に対して消極的である。また、20代は自己管理と従来通りの差が最も小さく、行政管理の割合も他の年代よりも大きいため、自己管理に対してそれほど積極的でないことが分かる。

「年齢」と問 18-2 「どのように疾患名の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように自分の疾患名の情報を管理したいですか」

		合計	Q17-2疾患名			
			行政管理 (データ共有)	自己管理 (ICカード)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	209 18.4	629 55.3	299 26.3	29
年齢	20代	364 100.0	78 22.2	173 49.1	101 28.7	12
	30代	307 100.0	69 23.0	163 54.3	68 22.7	7
	40代	195 100.0	31 16.3	106 55.8	53 27.9	5
	50代	163 100.0	18 11.3	99 62.3	42 26.4	4
	60代以上	137 100.0	13 9.6	88 64.7	35 25.7	1



<考察>

全体では自己管理が過半数を占めている。このことから、疾患名については情報漏えいの危険性は避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見ると年齢が高くなるにつれて自己管理の割合が高く、行政管理の割合が低くなっている。このことから、年齢が高くなるほど、疾患名という情報が漏えいされたくないことが分かる。特に、50代以上は顕著に行政管理に対して消極的である。

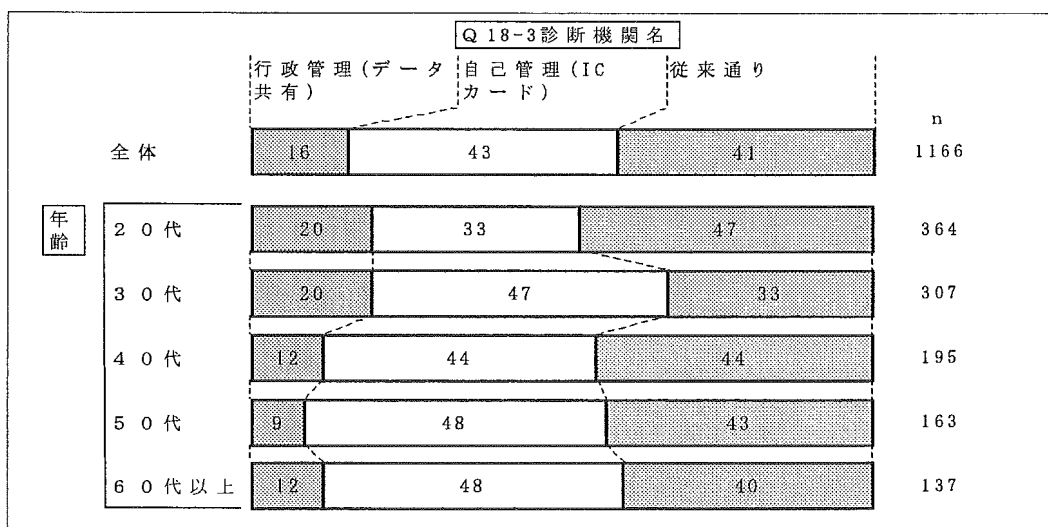


「年齢」と問 18-3 「どのように診断機関名の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように自分の診断機関名の情報を管理したいですか」

		合計	Q18-3診断機関名			
			行政管理 (データ 共有)	自己管理 (ICカー ド)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	184 16.1	486 42.5	473 41.4	23
年 齢	20代	364 100.0	72 20.2	118 33.1	166 46.6	8
	30代	307 100.0	59 19.5	143 47.4	100 33.1	5
	40代	195 100.0	23 12.1	84 44.2	83 43.7	5
	50代	163 100.0	14 8.8	76 47.8	69 43.4	4
	60代以上	137 100.0	16 11.8	65 47.8	55 40.4	1



<考察>

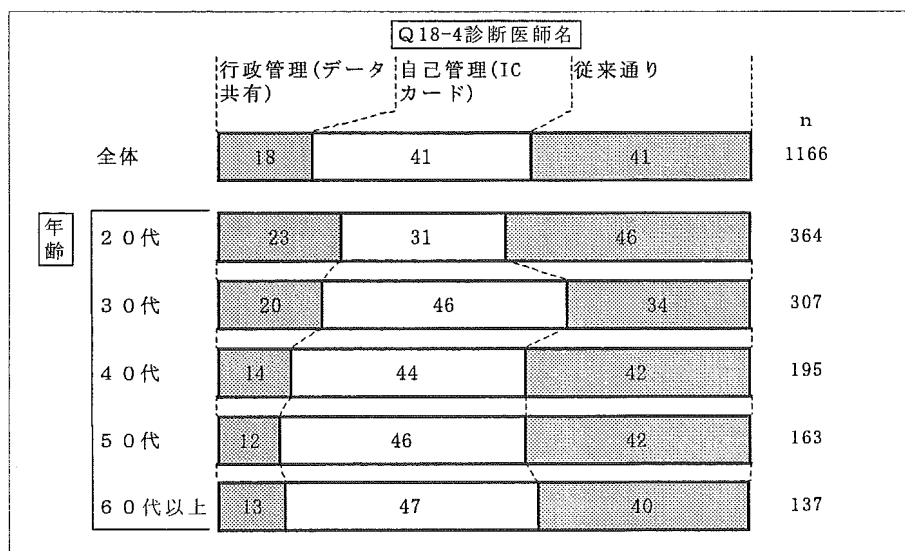
全体では自己管理と従来通りが同じくらいになっている。このことから、診療機関名については情報漏えいの危険性は避けたいだけでなく、自己管理による利便性の向上もそれほど望んでいないことが分かる。また、年代別に見ると20代を除き年代間に差異は見受けられない。20代は自己管理が従来通りよりも少なく、自己管理に対してもっとも消極的であることが分かる。

「年齢」と問 18-4 「どのように診断医師名の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように自分の診断医師名の情報を管理したいですか」

		合計	Q18-4診断医師名			
			行政管理 (データ 共有)	自己管理 (ICカー ド)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	204 17.9	467 41.0	469 41.1	26
年 齢	20代	364 100.0	81 22.8	110 31.0	164 46.2	9
	30代	307 100.0	60 20.1	136 45.5	103 34.4	8
	40代	195 100.0	27 14.2	83 43.7	80 42.1	5
	50代	163 100.0	19 11.9	74 46.3	67 41.9	3
	60代以上	137 100.0	17 12.5	64 47.1	55 40.4	1



<考察>

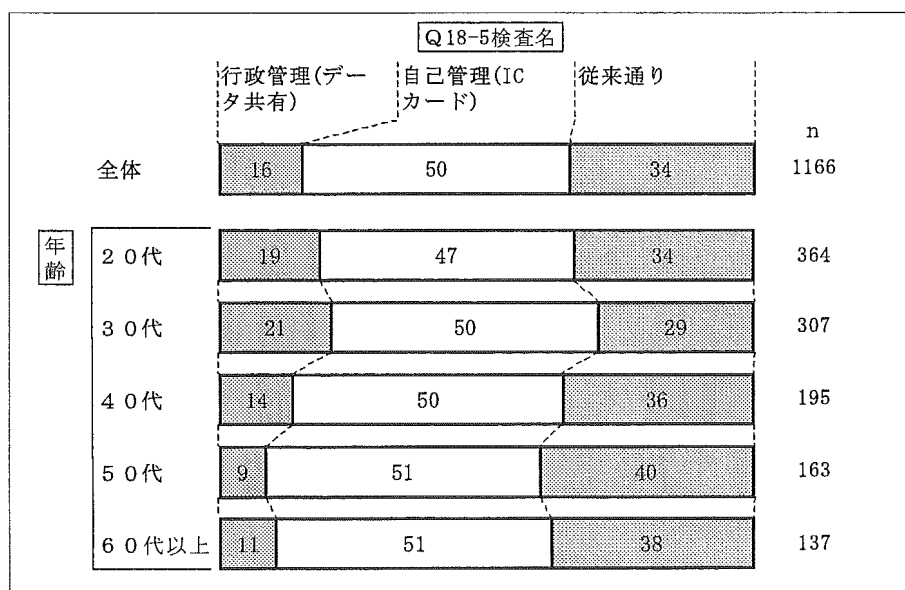
全体では自己管理と従来通りが同じくらいになっている。このことから、診断医師名については情報漏えいの危険性は避けたいだけでなく、自己管理による利便性の向上もそれほど望んでいないことが分かる。また、年代別に見ると20代を除き年代間に差異は見受けられない。20代は自己管理が従来通りよりも少なく、自己管理に対してもっとも消極的であることが分かる。

「年齢」と問 18-5「どのように検査名の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように検査名の情報を管理したいですか」

		合計	Q18-5検査名			
			行政管理 (データ共有)	自己管理 (ICカード)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	186 16.3	563 49.3	394 34.5	23
年齢	20代	364 100.0	67 18.9	166 46.8	122 34.4	9
	30代	307 100.0	63 20.9	152 50.3	87 28.8	5
	40代	195 100.0	26 13.7	95 50.0	69 36.3	5
	50代	163 100.0	15 9.4	81 50.6	64 40.0	3
	60代以上	137 100.0	15 11.0	69 50.7	52 38.2	1



<考察>

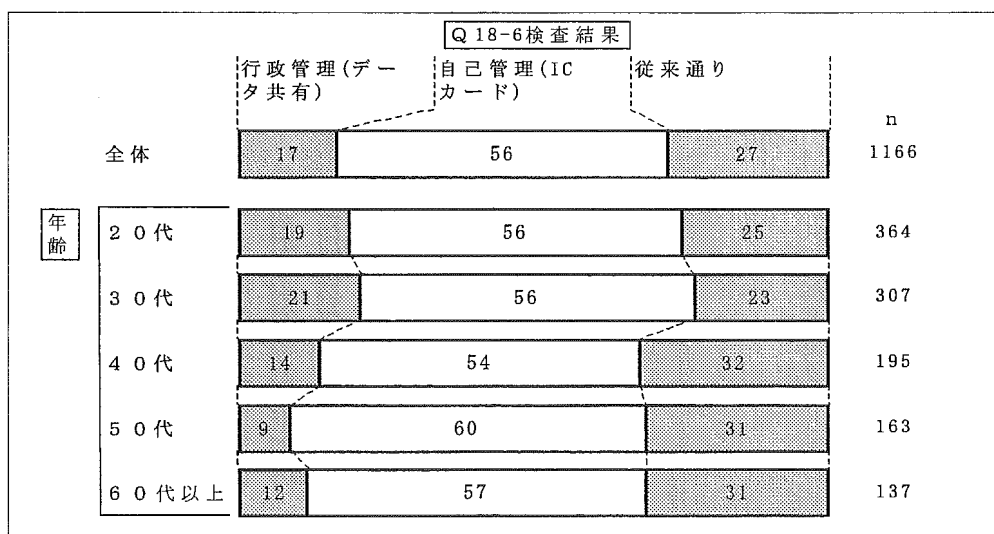
全体では自己管理が過半数を超えず、従来どおりが行政管理を上回っている。このことから、検査名については情報漏えいの危険性は極力避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見るとそれほど年代間に差異は見受けられない。50代以上が行政管理に特に消極的であるが、高齢者ほど特に検査名に対して守備意識が高いことが分かる。

「年齢」と問 18-6 「どのように検査結果の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように検査結果の情報を管理したいですか」

		合計	Q18-6検査結果			
			行政管理 (データ共有)	自己管理 (ICカード)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	189 16.5	645 56.4	310 27.1	22
年齢	20代	364 100.0	68 19.1	199 55.9	89 25.0	8
	30代	307 100.0	64 21.2	169 56.0	69 22.8	5
	40代	195 100.0	26 13.7	103 54.2	61 32.1	5
	50代	163 100.0	15 9.4	96 60.0	49 30.6	3
	60代以上	137 100.0	16 11.8	78 57.4	42 30.9	1



<考察>

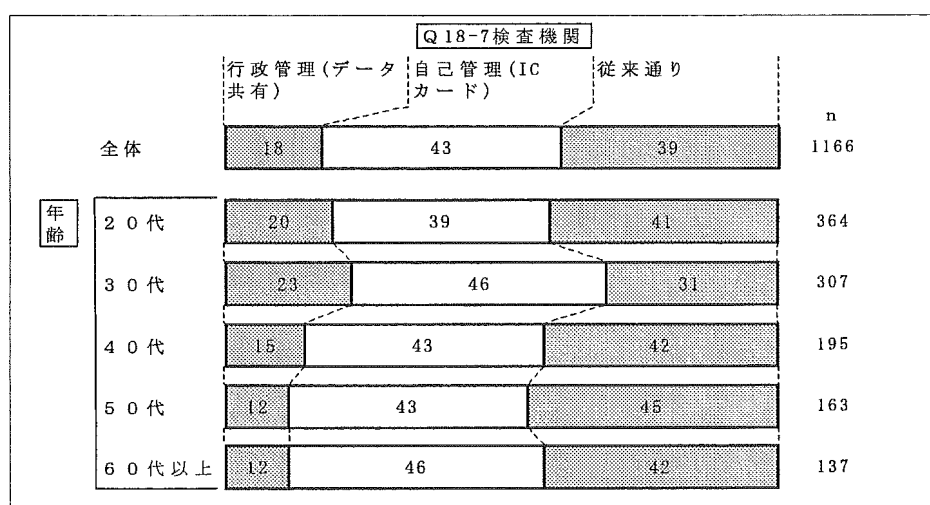
全体では自己管理が過半数を占めている。このことから、検査結果については情報漏えいの危険性は避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見ると年代間にそれほど差異は見受けられない。特に、50代が行政管理に対して消極的であるが、それほどの特徴はない。

「年齢」と問 18-7「どのように検査機関の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように検査機関の情報を管理したいですか」

		合計	Q 18-7検査機関			不明
			行政管理 (データ 共有)	自己管理 (ICカー ド)	従来通り	
全体		1166 100.0	203 17.8	487 42.8	448 39.4	28
年 齢	20代	364 100.0	70 19.9	136 38.6	146 41.5	12
	30代	307 100.0	70 23.3	137 45.5	94 31.2	6
	40代	195 100.0	28 14.7	83 43.7	79 41.6	5
	50代	163 100.0	19 11.9	69 43.1	72 45.0	3
	60代以上	137 100.0	16 11.9	62 45.9	57 42.2	2



### <考察>

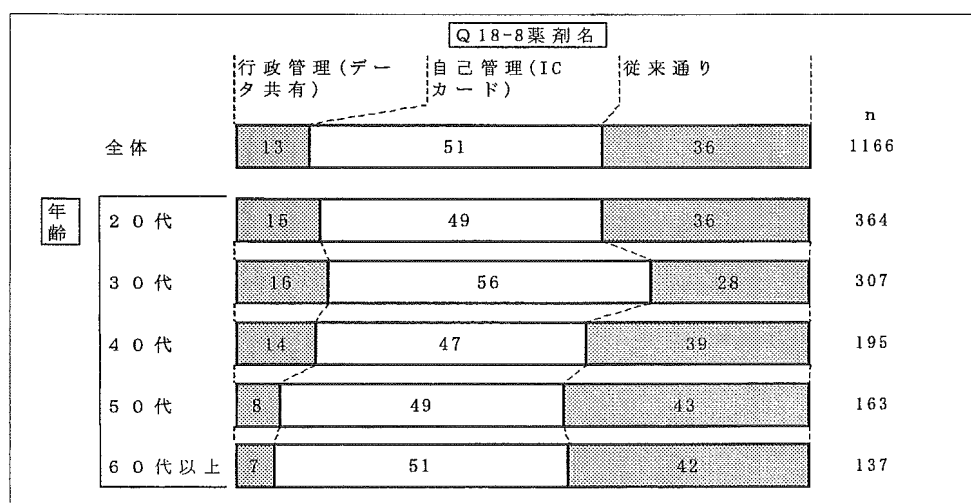
全体では自己管理と従来通りが同じくらいになっている。このことから、検査機関については情報漏えいの危険性は避けたいだけでなく、自己管理による利便性の向上もそれほど望んでいないことが分かる。また、年代別に見ると30代を除き年代間に差異は見受けられない。30代は従来通りがもっとも少なく、行政管理に対してもっとも積極的である。このことから、30代は他の年代に比べて、検査機関という情報の漏えい危険性よりも、利便性の向上を望んでいることが分かる。

「年齢」と問 18-8「どのように薬剤名の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように薬剤名の情報を管理したいですか」

		合計	Q18-8薬剤名			不明
			行政管理 (データ共有)	自己管理 (ICカード)	従来通り	
全体		1166 100.0	151 13.2	578 50.7	412 36.1	25
年齢	20代	364 100.0	55 15.5	173 48.7	127 35.8	9
	30代	307 100.0	48 16.1	166 55.5	85 28.4	8
	40代	195 100.0	26 13.6	90 47.1	75 39.3	4
	50代	163 100.0	12 7.5	80 50.0	68 42.5	3
	60代以上	137 100.0	10 7.4	69 50.7	57 41.9	1



<考察>

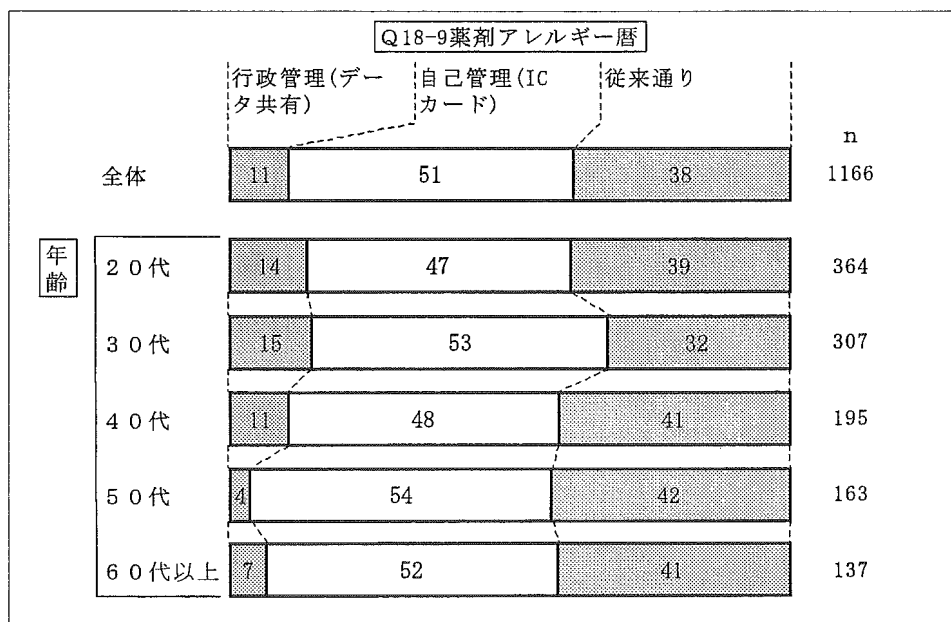
全体では自己管理が過半数を占めている。このことから、薬剤名については情報漏えいの危険性は避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見ると30代を除き年代が高くなるに従って、自己管理の割合が高く、行政管理の割合が低くなっている。このことから、高齢者ほど薬剤名という情報の守備意識が高いことが分かる。30代はもともと自己管理の割合が高く、従来通りの割合が低い。

「年齢」と問 18-9「どのように薬剤アレルギー歴の情報を管理したいか」クロス集計分析  
質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように薬剤アレルギー歴の情報を管理したいですか」

		合計	Q18-9薬剤アレルギー歴			
			行政管理 (データ共有)	自己管理 (ICカード)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	129 11.3	577 50.7	433 38.0	27
年齢	20代	364 100.0	48 13.5	170 47.9	137 38.6	9
	30代	307 100.0	45 15.0	161 53.5	95 31.6	6
	40代	195 100.0	20 10.6	91 48.1	78 41.3	6
	50代	163 100.0	7 4.4	85 53.5	67 42.1	4
	60代以上	137 100.0	9 6.7	70 51.9	56 41.5	2



<考察>

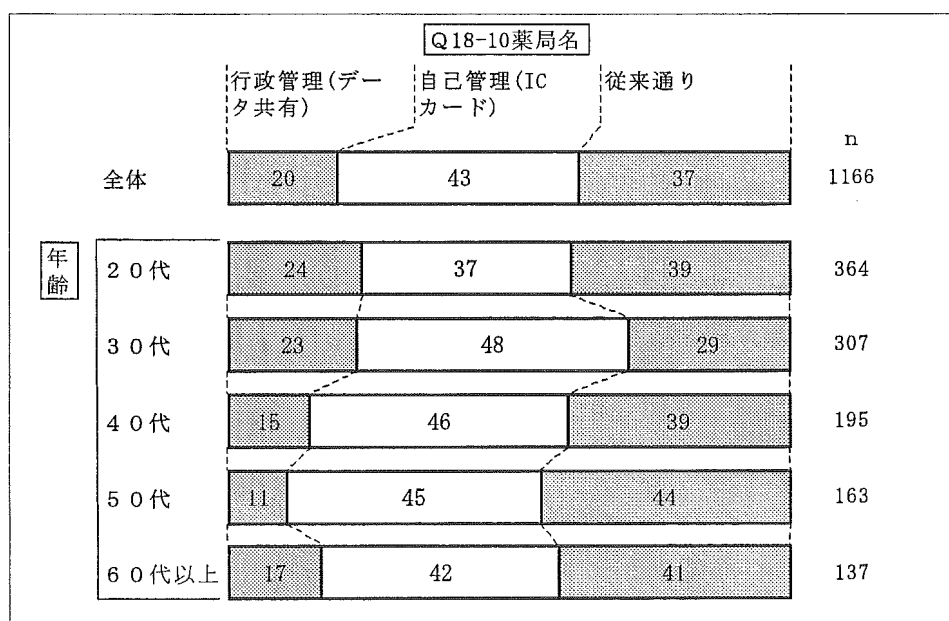
全体では自己管理が過半数を占めている。このことから、薬剤アレルギー歴については情報漏えいの危険性は避けたいと思っていることが分かる。また、年代別に見ると年代間にそれほど差異は見受けられないが、特に50代以上が行政管理に対して消極的である。このことから、高齢者ほど薬剤アレルギー歴という情報に対して守備意識が高いということが分かる。

「年齢」と問 18-10「どのように薬局名の情報を管理したいか」のクロス集計分析  
 質問方法：

「あなたの年齢は」

「どのように薬局名の情報を管理したいですか」

		合計	Q18-10薬局名			
			行政管理 (データ共有)	自己管理 (ICカード)	従来通り	不明
全体		1166 100.0	222 19.5	492 43.3	422 37.1	30
年齢	20代	364 100.0	86 24.2	133 37.5	136 38.3	9
	30代	307 100.0	68 22.7	143 47.8	88 29.4	8
	40代	195 100.0	28 14.9	87 46.3	73 38.8	7
	50代	163 100.0	17 10.8	72 45.6	69 43.7	5
	60代以上	137 100.0	23 16.9	57 41.9	56 41.2	1



<考察>

全体では自己管理と従来通りが同じくらいになっている。このことから、薬局名については情報漏えいの危険性は避けたいだけでなく、自己管理による利便性の向上もそれほど望んでいないことが分かる。また、年代別に見ると高齢者ほど行政管理を望んでいないことが分かる。このことから、年代が高くなるほど薬局名という情報に対する守備意識が高いことが分かる。



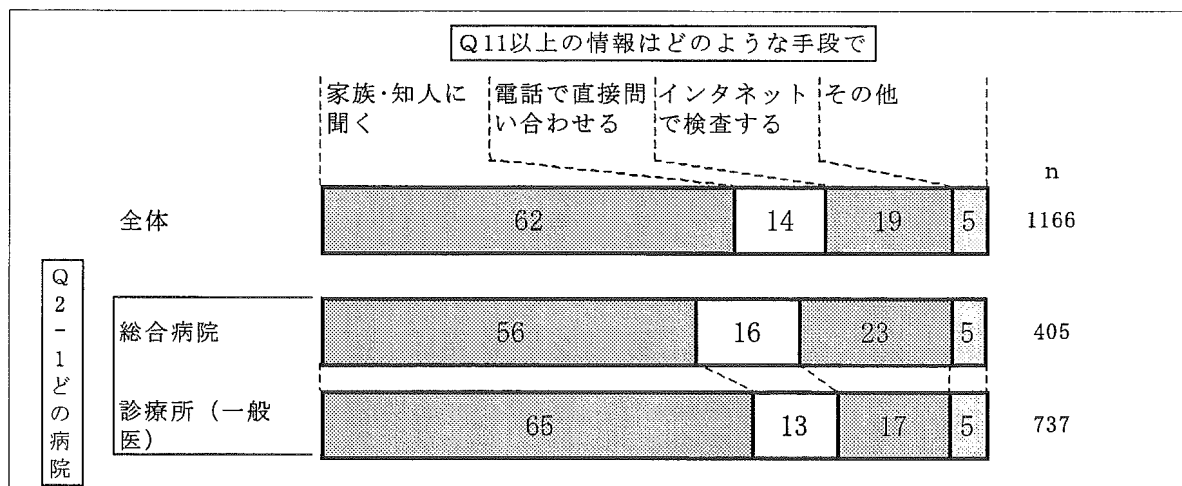
問 2-1 「病院タイプ」 問 11 「情報収集手段」 のクロス集計分析

質問方法

「あなたのいかれた病院はどのような病院ですか」

「以上のような情報をあなたは今まで主にどのような手段で手に入れていますか」

	合計	Q11以上の情報はどのような手段で				
		家族・知人に聞く	電話で直接問い合わせる	インターネットで検査する	その他	不明
全体	1166 100.0	706 61.0	165 14.3	223 19.3	63 5.4	9
Q 2   どの   病院   1	総合病院 405 100.0	220 55.1	65 16.3	93 23.3	21 5.3	6
	診療所（一般医） 737 100.0	469 63.8	98 13.3	128 17.4	40 5.4	2



<考察>

全体の約 60%が病院の医師の情報を家族や知人から得ており、これは総合病院と診療所との間に大きな違いは見られず、60%程の人が情報を家族や知人から得ていることがわかる。このことより、患者が判断する病院の医師の情報は口コミによって大きく影響を受けるということが予想できる。

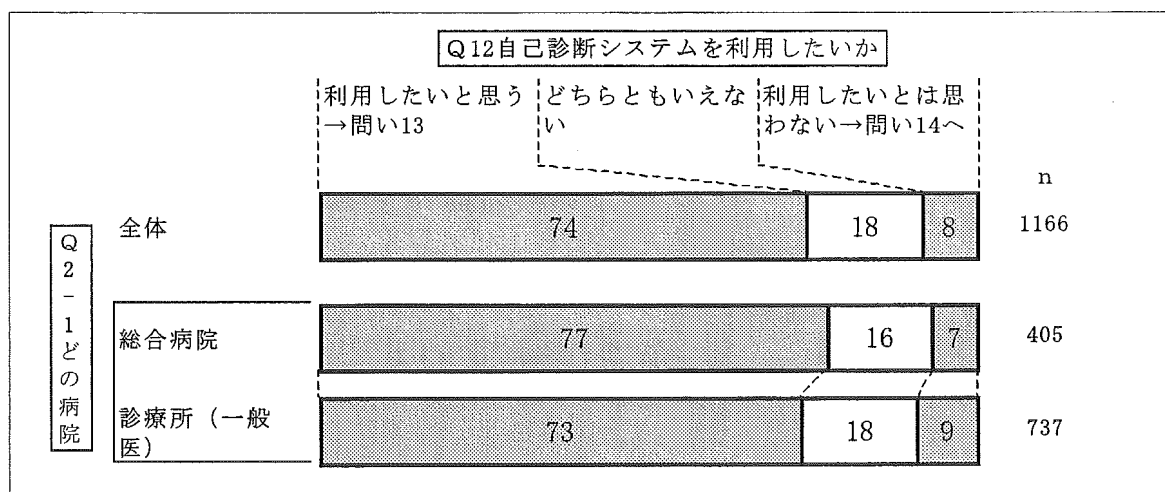
総合病院ではインターネットで調査する患者の割合が、診療所に比べて多いのは、総合病院の方がホームページをもっていたり、情報提供や情報公開している病院が比較的多いからだと考えられる。

問 2-1 「病院タイプ」と問 12 「自己診断システム利用に対する意識」 のクロス集計分析  
質問方法

「あなたのいかれた病院はどのような病院ですか」

「あなた自身や家族の体調が悪いときに、インターネット上で公的な機関が提供する、ある程度の病状を「自己診断できる仕組み」があるとしたらあなたは利用したいと思いませんか」

	合計	Q12自己診断システムを利用したい				
		利用したいと思う →問13	どちらともいえない	利用したいとは思わない →問14へ	不明	
全体	1166 100.0	858 73.9	205 17.7	98 8.4	5	
Q2の   どの 1 病院	総合病院	405 100.0	309 76.9	64 15.9	29 7.2	3
	診療所（一般医）	737 100.0	533 72.4	136 18.5	67 9.1	1



<考察>

全体の約 75%の患者が利用したいと感じていることがわかった。これは総合病院と診療所の間大きな違いは見られず、75%前後の患者が利用したいと希望していることがわかる。これはいきなり病院へ行かなくても、まず自分で診断できるというところに便利さや金銭的メリットを感じ、期待をしている患者の心理がうかがえる。

一方 25%前後の患者が利用したいと思っていなかったり、どちらともいえないと思っているのは、処置の遅れなどに不安を持っている患者がいるからであると考えられる。

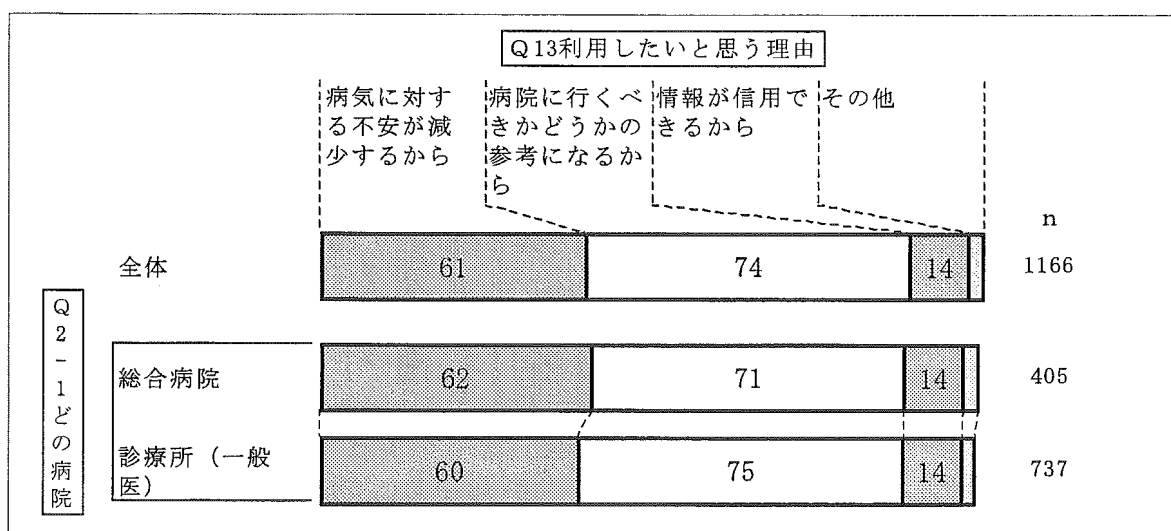
問 2-1「病院タイプ」と問 13「利用したいと思う理由」のクロス集計分析

質問方法

「あなたのいかれた病院はどのような病院ですか」

「利用したいと思う理由は何ですか」

	合計	Q13利用したいと思う理由						
		病気に対する不安が減少するから	病院に行くべきかどうかの参考になるから	情報が信用できるから	その他	不明	非該当	
全体	1166 100.0	533 60.9	647 73.9	120 13.7	26 3.0	0	291	
Q 2 の   1   病 院	総合病院	405 100.0	198 62.3	225 70.8	44 13.8	9 2.8	0	87
	診療所（一般医）	737 100.0	325 60.1	407 75.2	76 14.0	15 2.8	0	196



<考察>

「病院に行くべきかどうかの参考になる」が約 75%、「病気に対する不安が減少するから」が約 60%とほとんどの患者が自分の病状の判断材料としての利便性に期待していることがうかがえる。

情報が信用できるからという答えが少なかったのは、簡易的な判断指標にしかならず、検査をせずに正確な診断ができるとは考えられないためだと考えられる。

この結果から、患者は病状の診断ツールとしてではなく、病院へ行く前の病気の早期発見や病状の判断材料として期待していると考えられる。

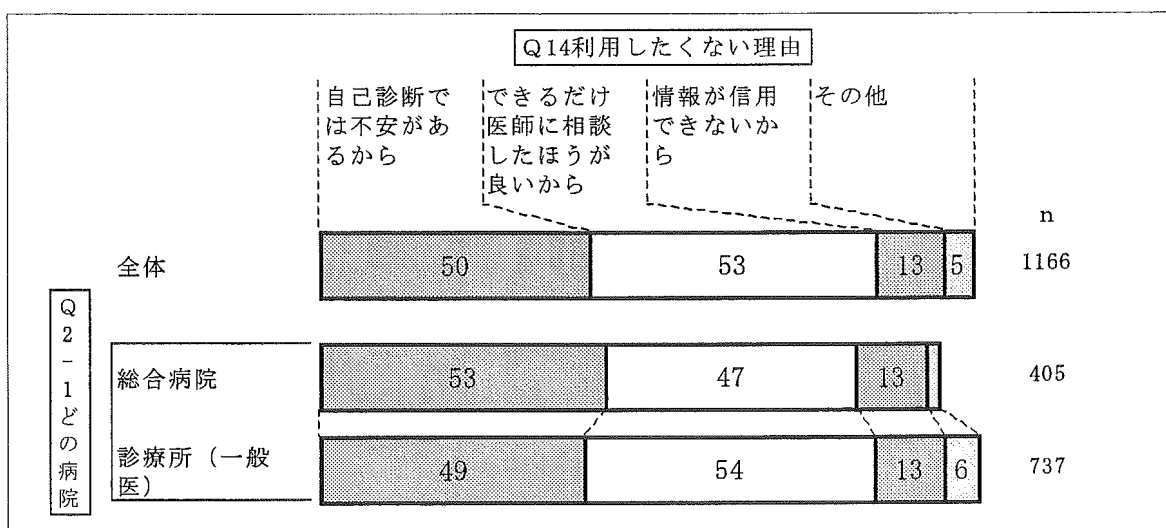
問 2-1「病院タイプ」と問 14「利用したくない理由」のクロス集計分析

質問方法

「あなたのいかれた病院はどのような病院ですか」

「利用したくないと思う理由は何ですか」

		合計	Q14利用したくない理由				不明
			自己診断 では不安 があるか ら	できるだ け医師に 相談した ほうが良 いから	情報が信 用できな いから	その他	
全体		1166	63	66	16	6	0
		100.0	50.4	52.8	12.8	4.8	
Q 2 の   病 院	総合病院	405	20	18	5	1	0
	診療所（一般医）	737	42	46	11	5	0
		100.0	49.4	54.1	12.9	5.9	



<考察>

「自己診断では不安があるから」が約 50%、「できるだけ医師に相談した方がよいから」が約 50%という結果が得られた。この結果ら、利用しないと答えた患者は自分で診断することによっての処置の遅れなどに不安を感じていることがうかがえる。

また、「情報が信用できないから」と答えた患者が少ないことから、情報に対する不安を感じているわけではないことがわかる。